

第一一四回 愛知学院大学モーニングセミナー

2015年9月8日

『万葉集』は宴の歌

上野 誠

(奈良大学文学部/国文学研究室)

はじめに

■自己紹介もかねて・・・断らない三つの講演会 ■万葉の都・・・飛鳥・藤原・奈良(平城京) ■四五一六の宝/二十巻の宝 ■律令国家形成期の文学 ■庶民から天皇まで・・・万葉の広さ ■われわれは『万葉集』に何を学ぶか・・・言葉の重要文化財 ■歌によってわかる歴史・・・りんごの歌・星の流れに・憧れのハワイ航路/美空ひばりと戦後 ■歌は声に出して歌うもの ■節があるからお経も覚えられる・・・浪曲/唄入り観音経 ■空間と時間を越える歌のちから ■『万葉集』は三面記事・・・野沢社長の涙/歌は世につれ??? ■すいた惚れた ■白鳳・天平の青春グラフィティー ■右から左まで ■黒砂糖の味・・・不純物がいっぱい ■『万葉集』はことばの文化財 ■古代の声、古代人の心情に触れる ■見えないけれど、感じるこのとでできる文化財・・・内科・外科・心療内科の古代学 ■一五〇億の投資・・・万葉ミュージアム(奈良県明日香村) ■今なぜ『万葉集』か・・・日本人のアイデンティティ/古代憧憬 ■東アジアに開かれた国際性のある文芸・・・漢字・儒教・仏教・律令による近代化の時代

一、ある下級官人の恋

このころのわが恋力(こいちから)記し集め 功(くう)に申さば五位の冠(こうぶり)

このころのわが恋力賜(たば)らずば 京職(みさとづかさ)に出でて訴(うれ)へむ

右の歌二首

(『万葉集』卷一六の三八五八・三八五九)

▼恋力・・・・

▼功・・・・

▼五位の冠・・・・

▼京職・・・・

第1表 平城京の人口構成

階 層	人口の比率
五位以上	0.05%
初位～六位	0.3%
無位の官人 (官人の家族)	3%
仕丁・奴婢	30%
一般京戸	46%

[鬼頭 1977年]より

■平城京に生きた下級役人の生活
とあいさつ ■座くずれとバレ歌
■五位の重さ・・・貴族 ■律令と勤務評定 ■本当の恋歌か？ ■宴席歌
■さわやかなる開直り ■知性とウイット・・・お役所ことばの連発

二、勤務評定

■ 朝廷の意味 ■ 六勤一休 ■ 田暇・・・春秋 ■ 田園の貴族・・・生産 ■ 時間を支配するもの・・・王権と
タイム・カード ■ 人事考課・・・考課木簡 ■ アイ・ディー・カード

凡そ内外の文武百官の初位以上は、年毎に当司の長官、其の属官考せよ。考すべくは、皆具に一年の功過
行能を録して、並に集めて対ひて読め。其の優劣を議りて、九等第定めよ。八月の卅日より以前に校へ定め
よ。京官畿内は、十月の一日に、考文太政官に申送せよ。・・・

(養老考課令第一条)

■ 行過功能・・・「功」 ■ 考文・・・勤務評定／出世を左右する ■ 長官の権限・・・人事考課権 ■ 九段階
評価と落第 ■ 情報公開の義務・・・律令の合理主義 ■ 八月三十日と十月一日・・・タイム・ラグ

■古典を注釈するということ・・・高野豆腐 ■実感してこそ・・・現代の生活実感が大切 ■学校教育における古典・・・「正さ」と「楽しさ」／文法中心主義 ■「感動の押し売り」・・・ ■エキサイティングな・・・古代学の展開 ■文献・考古・文学・保存科学・民俗学・・・総合の時代 ■タコ壺的学問形成・・・研究者の養成機関 ■文化の「戦略」・・・中国・朝鮮半島・ベトナム、そして日本／協力と競争 ■今、『万葉集』がおもしろい



161 正倉院宝物



唐招提寺金堂梵天像台座の落書